

進路だより

令和8年3月23日（月）
都立青山特別支援学校長
中澤 将人
<第9号> 進路指導部
文責 岩木 亨介

「18歳の壁」をご存じですか？

—— 中学部の卒業後の生活を見据えて、今から知っておきたいこと ——

中学部の段階ではまだ進路選択まで時間がありますが、特別支援学校では18歳（高等部卒業）を境に大きな制度の切り替えが起こるため、「18歳の壁」と呼ばれることがあります。

いまから少しずつ知っておくことで、将来の見通しをもちやすくなります。

○なぜ「18歳の壁」と言われるのか

18歳になると、子供時代に利用していた福祉サービス（放課後等デイサービスなど）が終了し、成人向けのサービスに切り替わります。

その際、

- 福祉制度の変更（児童福祉法→障害者総合支援法）
- 利用できるサービスの種類
- 1日の利用時間
- 活動内容・雰囲気
- 家庭で過ごす時間の増加

などが大きく変わることが多く、保護者の皆さまが不安を感じやすい時期と言われています。

基本的な仕組みを知っておくことで、高等部に上がってからの進路準備がスムーズになります。

○卒業後に多く利用されるサービス

今回は、将来の選択肢として「生活介護」と「就労継続支援B型」について、基礎的な情報をまとめました。

① 生活介護

対象: 重度の知的・身体の障害があり、日常生活に支援が必要な方

内容: ゆったりとした環境の中で、健康維持・余暇活動・軽作業などを行い、日中の生活をサポートします。

〈利用時間の例〉

- 多くが 9:30～15:30 前後（5～6 時間）
- 送迎の有無は事業所によって異なる（通所バスなどが配車される事業所が多い）
- 医療的ケア対応の施設もあり

② 就労継続支援B型

対象: 一般就労は難しいが、作業を通じて社会参加したい方

内容: 軽作業・製作活動などを行い、工賃を受け取りながら働く経験を積みます。

〈利用時間の例〉

- 9:30～15:00 頃（4～6 時間）
- 週3～5日など柔軟に通所可能（原則として一人通所、通所バスなどが配車されることが少ない）
- 作業内容・負担は施設により多様

○ 18歳を迎えると変わるポイント

✓ 利用できる時間が短くなることが多い

在学中は「学校+放課後デイ」で夕方まで活動がありますが、

卒業後は 5~6 時間程度のサービスが中心です。(一部で通所時間の延長ができる事業所もあるが少ない)

→ 帰宅後の時間帯の過ごし方を想像しておく必要があります。

✓ 送迎の有無で選択肢が変わる

進路を考える際の大きなポイントになります。

✓ 活動内容や雰囲気の幅が広い

実際に見学すると、本人に合う場所がイメージしやすくなります。

○ 小・中学部の今だからこそできる準備

① 将来の選択肢の「名前」だけでも覚えておく

生活介護・B型などの違いを知ると、高等部での進路学習が理解しやすくなります。

② 「どんな生活リズムが合いそうか」を家庭で話題に

・活動的に過ごすほうが合うのか

・ゆったりした環境が安心なのか

など、少しずつイメージしておくといいです。

③ 高等部見学・説明会の情報に敏感に

小・中学部のうちから学校や地域の情報を集め始めると余裕をもって準備できます。

○ 最後に

特に中学部は、高等部卒業後の生活を具体的に考える前の“知識をためる時期”です。

将来の見通しがもてると、高等部での進路選択がぐっと楽になります。

気になることがあれば、いつでも学校へ御相談ください。

以下のQRコードから、令和5年度 港特別支援学校の進路先一覧を御覧いただけます。

卒業後の進路を考える際の参考資料として、ぜひ御活用ください。



今年度の進路だよりは、今回で最後となります。1年間お読みいただきありがとうございました。今後も、保護者の皆さまの「気になること」「知りたいこと」に寄り添える進路情報をお届けできればと思います。来年度もどうぞよろしくお願いたします。